

100号 記念発行を振り返って...

平成 17 年 10 月、「福生市輝き市民サポートセンター」が開設し、平成 18 年 2 月 1 日に KAGAYAKI 第 1 号を発行しました。その後隔月に発行し、この度 100 号記念号といたしました。

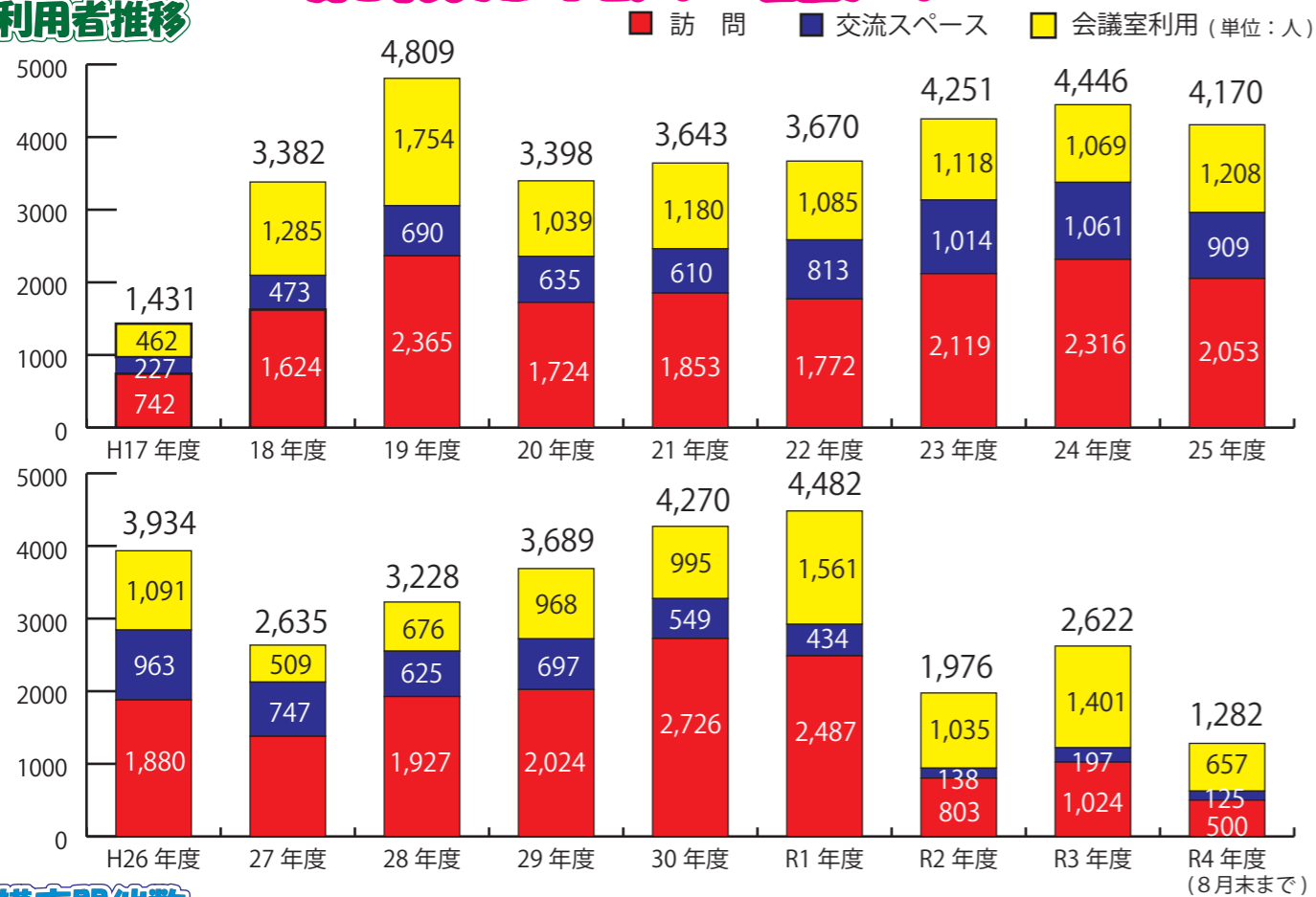
開設当初はクイズ形式で輝き市民サポートセンターを紹介したり、センター企画第 1 弾として、『生き生き遊ぼう！市民活動サポート講座「かがやき」』を開催。その後も時流のテーマなども取り入れながら、更に市民活動をする方のサポートとなる内容を検討し、様々な講座を開催してまいりました。

平成 18 年 4 月にはホームページの運用を開始し、登録団体のお知らせとして、日頃の活動の紹介をしています。同年 10 月には、「hands to hands」を開設 1 周年記念イベントとして行い、令和元年までの間で 14 回開催しました。(令和 2 年～4 年は活動紹介を実施)令和元年 12 月からは、各団体の日頃の活動内容を展示する「活動紹介コーナー」が館内に設けられました。KAGAYAKI にも掲載しています。



輝き市民サポートセンター 各種データ

利用者推移



講座開催数

年度	開催数	年度	開催数	年度	開催数	年度	開催数	年度	開催数
平成 17 年	5	平成 18 年	15	平成 19 年	17	平成 20 年	14	平成 21 年	19
平成 23 年	11	平成 24 年	7	平成 25 年	7	平成 26 年	8	平成 27 年	7
平成 29 年	6	平成 30 年	8	令和 1 年	10	令和 2 年	6	令和 3 年	8
				令和 4 年	1	令和 4 年	1	令和 4 年	1

これまで、たくさんの方々に利用していただきました。開設当初はなかなか来館者数が増えませんでした。その後は徐々に増え、平成 19 年度には開設時の 3.3 倍になり最多となりました。平成 27 年度はセンターのリニューアル工事があり、イベントの中止、会議室利用の制限もありました。令和 2 年度からは、コロナ感染症の影響により、行動制限・休館・開館時間の短縮等で大幅に減少しました。今年度からは、「市民活動サロン輝き」の開始で会議室利用の幅も広がり、講座の受講者数の制限もないことから、少しずつ皆様に足を運んでいただいているのではないかと思います。今後も皆様にご来館・ご活用いただけますようにしてまいります。

KAGAYAKI 100号記念 座談会

実施日：8月27日(土)午後1時～3時

ガールスカウト東京都第 191 団・シニアあすなる・ドイツ平和村をサポートする会・花柳千衛里会・コープみらいみらいひろば福生・SSS(®)福生・フードバンクふっさ(登録順)の 7 団体 9 名の皆さんに参加していただきました。はじめに、活動内容を含め自己紹介をし、「サポートセンターのあんなこと・こんなこと」をテーマに様々なご意見を頂きました。

市民活動・ボランティア についてのご意見

- ・ボランティアは、自ら自発的に活動すること
- ・ボランティアに対する考え方は人それぞれ違うと感じる
- ・自分の意思でやるのが大事
- ・学校の勉強でもない、やらされてるわけでもない、地域に愛着をもっていきつかけになる
- ・市民活動は個人・団体、ボランティアは個人という捉え方
- ・何が大事なのか課題がでてきた
- ・ライフスタイルも考えていかななくてはならない
- ・どこまでやるべきなのか、メンバーとどううまく活動できるのかという部分が難しい
- ・その人の姿勢であり、温度差も生まれる
- ・一人ひとりどう生活状態でかかわっているのか理解する
- ・人の役に立ったと実感できる
- ・「深い」「広い」ので、アドバイスをいただきながらやっていきたい



三原さん
ガールスカウト
東京都第 191 団



秋山さん
ドイツ平和村を
サポートする会

平和 についてのご意見

- ・伝えていかないと忘れられてしまう
- ・平和についての講座に参加して、戦争時の状況など知らなかったという声があった。自分自身も知らないことがあったので、いろいろ話しをして交流することは大切だと感じた
- ・原爆展を開催したが、やり続けることに意味がある
アンケートより①今世界の平和が崩されそうな心配がしている
②一人ひとりが反対の声を大きくしなければこれからの子供たちの未来はなくなるのではないかと心配している
③知ってはいたけれど、原爆投下後の人々の様子がこんな風だとは知らなかった
④見る度に、新たな思い・祈りを感じる
⑤事実を伝えることの大切さがわかる
- ・ドイツでも追悼している
- ・原爆展を娘と展示を見に行き行って衝撃を受けた・もっとたくさんの人に見てもらいたい
- ・学校では、刺激のあるものは見せられないという意向もある
- ・市によって方針が違う
- ・小さい時から目にしないといけない
- ・孫が広島に式典に行ったが受験の影響はないとさえぎられるような、対内外に受け入れにくい問題でもある
- ・当時、広島県呉市倉橋島で、原爆を見た
- ・「はだしのゲン」を何度も読んだ



シニアあすなる



山口さん



岩戸さん